



高山市政クラブ  
榎隆司議員

### 障がい者と高齢者 施策及び公共施設 について

視覚障がい者の歩行  
移動の支援について

圏一Cタグ付き点字ブ  
ロック等を採用し、音  
声による歩行移動支援  
システムを採用しては、  
答提案のシステムは視  
覚障がい者の誘導案内  
を、携帯電話を通して  
音声で取得できること  
から、歩行移動におけ  
る新たな支援として有  
効と考えるが、本市の  
場合は積雪時の対応が  
課題となるので、積雪  
寒冷地特有の歩行者誘  
導の問題点を解決で  
きるよう、調査・研究  
を進める。

認知症徘徊による損  
害保険について

認知症の高齢者が徘徊  
中に事故を起こし家  
族が高額な賠償を求め

られた場合に備え行政  
が保険に加入する事業  
を始めた自治体がある  
が、市の考えは。

個人加入するこ  
とが原則で市としては  
必要性がないと考えて  
いる。市としては見守  
り体制のルール作りを  
進める。

公共施設の修理等  
について

雨漏り対策が早急に  
必要な施設があるが市  
の考えは。

答 損傷や不具合となっ  
ている原因の究明等に  
時間が必要となってい  
る場合もあるが、大規  
模な修繕については修  
繕計画を作成し計画的  
に実施し、小規模な修  
繕や突発修繕について  
は優先順位を決めて実  
施する。



創政クラブ  
谷村昭次議員

### 人口減少での日常 的生活の維持・向 上策の再考

合併以降における地  
域別の人口減少に向  
き「もう「まちづくり」

合併時に対する現在  
での人口減少数・減少  
率を地域別に比較する  
と、地域格差があるが、  
この検証ができてい  
るのか。地域活性化には  
住民自身の熱意と意識  
変化の方策とともに支  
所ごとに留まらない、  
川筋・道筋まちづくり  
からのアプローチや隣  
市との広域連携につ  
いて、日常的生活の維持  
向上面からもさらに取  
組むべきではないか。

答 合併時に対する現在  
までの人口減少数・減  
少率を地域別に比較し  
ての検証はできていな  
い。まちづくりエリア  
の捉え方として、川筋  
・道筋という視点の調  
査研究を重ねる。広域  
連携については、取り  
組み実績とともに、さ  
らに検討をする。



創政クラブ  
倉田博之議員

### 支所地域の将来ビ ジョンを明確にし、 寄り添う決意を市 は示せ!!

将来ビジョンの明確化

問 市長の新聞発言「合  
併は正しかったか。」  
「国県の意向に乗るし  
かなかった。」に市民  
の反感。その真意は。

答 全国論調からの旧町  
村の望みに旧市は応え  
た。切り捨てでなく、  
地域に光を当てる。協  
働のまちづくりが柱。  
問 多くの行政課題が合  
併によって持ち込まれ  
たような論調は、支所  
地域を傷つけ、一体感  
に水を差し、市民に動  
揺を与えないか。  
答 多くは記者の表現で  
受け取り方もあろう。  
内容は的確なので全部  
署に回覧した。単独路  
線の白川村のように旧  
町村も発展の可能性は  
あった。合併高山でも  
同様の発展を目指す。

問 八次総や都市計画に  
支所地域に特化・分化  
した記述はない。ビジ  
ョンを明確にする必要  
性を強く感じる。

答 不安の声は認識。市  
独自の全地域対象都市  
計画を策定すべく、今  
年度その基礎調査。八  
次総の見直しの柱。

子どもを守る防犯体制

問 犯罪の異常性が激化  
特に子どもの被害は衝  
撃で、市ができる限り  
の対応は常に求められ  
る。防犯灯やカメラ等  
の他、今ある連携対象  
の拡充・強化等、ハー  
ド・ソフト両面の新た  
な対策が喫緊。  
答 課題は認識。ハード  
は庁内の議論が未熟で  
今後の検討。ソフトは  
情報共有の仕組みづく  
りに取り掛かる。